

2022年3月期 第2四半期決算に関する主なご質問

- Q: 天然ガスなどの燃料に対する感応度について教えて欲しい。
A: プレント原油価格が1バレル当たり10ドル(USD)上昇し、天然ガスもそれと同程度に上昇したとする場合、20億円程度のコストインパクトがある想定です。
- Q: 欧州の建築用ガラス事業でのエネルギー価格上昇を価格転嫁する際のタイムラグについて教えて欲しい。原燃材料費が高騰しているが、下期はどの程度販売価格への転嫁でカバーすることができるか？
A: 契約上、一定期間価格を変更できないこともあります。基本的に欧州での需給環境は好ましく、価格への転嫁がしやすい状況となっています。そのため、ほぼタイムリーに売価へ反映できると考えています。また、原燃材料費の高騰は売価の上昇だけでなく、コスト削減でも対応していく見込みです。
- Q: エネルギーコスト上昇が続いているが、グループ全体のヘッジ比率やヘッジの考え方について教えて欲しい。
A: グループ独自のヘッジポリシーを定めており、ヘッジの比率はそちらに沿って運用を行っています。2022年3月期分に関しては約50%ヘッジを行っています。
- Q: 通期業績予想の据え置きはリスクを見込んでいるとのことだが、事業部別の見込みを教えて欲しい。
A: 建築用ガラス事業、高機能ガラス事業については引き続き下期も好調維持を見込んでいる一方、自動車用ガラス事業については不透明感が続くため、通期の業績予想は据え置いています。
- Q: 欧州の建築用ガラス事業は好調が続いているが、この状況は今後も続く想定か？目先で需要の変化がみられるか？
A: 需要に陰りが見えているという状況は今のところありません。欧州地域で窯を新設する動きも見られないため、しばらくはこの好調が続くと見えています。
- Q: 建築用ガラス事業は欧州の改築需要で、通常よりも強い需要がみられているか？
A: 全般的にはそのような傾向があるかと思えます。欧州では省エネルギー規制が厳しくなっていることを受け、高性能な複層ガラスなどの需要増加傾向は今後も続くと考えています。
- Q: 自動車用ガラス事業の収益性はその他の事業に比べて少ない印象だが、今後収益性の改善に向けてどういった施策を実施していく予定か？
A: 生産設備の余剰キャパシティの適正化や生産効率を上げること、そしてヘッドアップディスプレイに代表されるような高付加価値の製品を提供していく予定です。
- Q: 半導体不足が解消し、自動車生産が戻ってきた場合の自動車用ガラス事業の回復について教えて欲しい。
A: 地域やメーカーによって差があると考えています。ただ、自動車生産が回復した際にはしっかりと対応できるようコスト削減しつつ体制を整えていきます。
- Q: A種種類株式に対する考え方を教えて欲しい。
A: まずは中期経営計画に基づき財務基盤の強化に努めたいうえで、償還を進めていきたいと考えています。